

## 介護人材育成 ミャンマーで始動



日本の介護現場で働くことへの抱負などを述べた受講生代表のイン・モン・タンツさん(中央) (北斗文化学園提供)

### 室蘭の学校法人、全国初講座

## 道内での就労目指す

人手不足が深刻な介護業界の人材育成が狙いで、ベトナムなどに比べて国内での介護現場で働く人がまだ少なく、日本で働きたいと考える若者が増えることが見込まれるミャンマーに着目した。

講座は基礎的な日本語の会話ができ、特定技能「介護」の在留資格を持つミャンマー人を対象にする。同国で日本語学校を運営する「フューチャードリーム」

(千歳市)と共同で事業を行い、講師は同学園が運営する北海道福祉教育専門学校の教員が務め、就職先のあっせんなどはフューチャードリームが担う。

開講式には受講生約20人が参加。同学園の吉谷敬教務部長が「日本での介護サービスは高いレベルが求められる。しっかりと学びを身につけてほしい」と沢田乃基校長のあいさつを代読した。

受講生代表のイン・モン・タンツさん(21)は、「日本は安全な国なので、生活するのが楽しみ」と期待した。

受講生は現地で約1カ月講座を受講した後、室蘭でさらに約1カ月研修を受け、主に道内の介護施設での就労を目指す。受講費や渡航費はフューチャードリームが紹介する施設などが負担し、受講生が施設で一定期間勤務すると、これらの費用は返済不要となる。

(村上真緒)

福祉の専門学校を運営する室蘭市の学校法人「北斗文化学園」は21日、ミャンマーの最大都市ヤンゴンの日本語学校で介護の基礎を学ぶ公的資格「介護職員初任者研修」の取得講座を開講した。同学園によると、学校法人が外国で資格取得講座を開設するのは全国初。